

関西中央高等学校 2022(令和4)年度 学校評価報告書

関西中央高等学校
学校評価委員会

1 本校の概要

(1)沿革

昭和39(1964)年4月に、桜井女子高等学校として現在の地(奈良県桜井市桜井502番地)に開校し、59年を迎えた。平成11(1999)年4月に、関西中央高等学校に校名変更を行い、特進コースを男女共学(平成15(2003)年全コースで共学)とした。開校以来、課程、コースなどの変遷を経て、平成29(2017)年4月より、普通科特別進学コース・進学コースの2コースとなった。

(2)基本理念、基本方針

基本理念 建学の精神「徳をのばす、知をみがく、美をつくる」に基づく人格形成
基本方針 「学ぶ力」をのばし、「生きる力」をみがく

(3)スクールミッション・ポリシー

スクール・ミッション(本校の使命)
「学ぶ力をのばし、生きる力をみがく」教育を実現する

スクール・ポリシー(教育方針)
「考える力」「コミュニケーション力」を育てる。
「社会規範」を確かに身につける。
「思いやりの心」を身につけ育てる。
「個性」をのばし育てる。
「学力」をのばす。

(4)令和4年度の重点目標について

①学力向上の教育体制の整備

- (1)生徒の進路を保障する教育プログラムを継続・推進する。
- (2)教育プログラムを効果的に展開する教育体制を維持する。

②学ぶ力・生きる力を育む教育体制の整備

- (1)教育の特色や実績を効果的に保護者に伝える方法を提案し本校教育の可視化を実現する。
- (2)教育環境の効率的、効果的整備と運用を図る。研究授業・職員研修を積極的に行い、授業改善を推進する。

2 今年度の重点目標における取組計画、自己評価、改善方策(経過報告)

自己評価の目安 S:大幅達成 A:達成 B:未達成 C:大幅未達成

(1) 重点目標① 学力向上の教育体制の整備

取組計画	自己評価	取組計画・内容	評価指標
生徒の進路を保障する教育プログラムを継続・推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業後の進路を就職、進学(4年制大学・短大・専門学校)に大きく分類し、オープンキャンパスなどへの積極的な参加を勧め、その体験を通じて考えさせ、その上で自身の進路を判断させる。学力調査、進路説明会などで卒業時の進路について意識付けを行い、保護者・個人面談を通して3年次の初めには自身の方向を定めさせ具体的に目標を設定させる。 ・生徒自身の目標を設定する上で社会の現状や、大学・短期大学・専門学校の入試情報、入試のしくみをなどタイムリーに伝える。さらに、卒業生の体験談を通して自己肯定感を高めつつ自己実現に向けての視野を広げる講演会を開催し多くの機会を提供する。 	進路人権教育部や生徒指導部から進路指導に有効な資料(クレペリン検査(指導方法含)、模試)の提供と最新の進路情報についての教職員研修が実施され効果的な進路指導が行われている。保護者対象の進路説明会を行い最新の入試情報を提供する機会を増やし保護者の理解を深め進路指導の質向上に努めた。探究の時間では担任・副担任が積極的に関わり生徒一人ひとりの考え方を知りサポート体制を整えることができた。
教育プログラムを効果的に展開する教育体制を維持する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の学力定着状況を日常的に把握するために朝学(主要3教科の確認テスト)を実施し、一定の得点を得られない場合には当日に再テストを行い基礎力向上に努める。教員間で指導の連携を図り、低学力生徒や不登校生徒に対しても個別指導を強化し、かつ、試験前には特別補習を行い勉強面でのサポートに教員一丸となって取り組み「学ぶ基礎」や学習習慣を定着させる。 ・様々な教育プログラムを通して「自ら学ぶ力」を育む環境づくりを行う。 ・総合的な探究の時間を利用して生徒たちが自らの手で自らのキャリアを創っていく力を育成する。 	

(2) 重点目標② 学ぶ力・生きる力を育む教育体制の整備

取組計画	自己評価	取組計画・内容	評価指標
教育の特色や実績を効果的に保護者に伝える方法を提案し本校教育の可視化を実現する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディサプリを通して担任からの学習サポート状況が保護者にも確認できる体制を整え可視化する。 ・本校の進路指導方針や学力の伸び率などの実例について保護者説明会を通して説明する。 ・卒業生の講演会やビデオメッセージなどを通して生徒自身が夢を実現できるように主体的に努力する態度を育成する。保護者参加を可能とし学校との協力体制を強化する。 	「学ぶ力」を育むため、学び続ける習慣が必要になることから学習状況が可視化され把握できるイーラーニングシステムを担任が積極的に活用し生徒に浸透している。システムの掲示板機能を使用し積極的にコミュニケーションを図り登校できない場合や長期休暇期間中においても学習する習慣を常に維持することができた。
教育環境の効率的、効果的整備と運用を図る。研究授業・職員研修を積極的に行い、授業改善を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会議では模試結果を教科担当教員で共有、イーラーニングの学習時間や考課結果を分析し授業改善を行う。 ・授業アンケートで課題を抽出し課題があれば教科主任、管理職で指導を行う。 ・イーラーニングシステムで課題配信やアンケートを実施し、効率化を図り授業改善を行う。 ・授業研究会を通して教員の授業力向上を図る。 ・探究の時間については全教員の参加型とし情報を共有する。 	「生きる力」は「何を学ぶか」「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」が重視されていることから教員研修を通して教員の指導力・知識向上に努めた。総合的な探究の時間を通して新しい時代に必要となる資質能力を育成する授業を実施し生徒同士の意見交換が活発になるなど一定の効果を得ることができた。

3 アンケートの実施状況について

学校教育法及び同施行規則に基づき、本校において学校評価を実施するため2022年7月に本校の生徒及び保護者にアンケートを実施し結果を集約した。今回のアンケート結果は本校の現状及び課題を再認識する契機として位置づけ、本校の教育内容と検証しさらなる改善に役立てる。

(1) 学校生活・教員との連携について

学内外における行動が制限されている中で学校生活への影響は大きく、学校全体で対応が求められていた。クラス担任・副担任やクラブ顧問と保護者との連携をとりながら学習・生活指導を進めている中、学校生活への前向きな意見は昨年より少し減少しているが、困ったときに相談できる先生への前向きな意見は向上している。今後は継続して生徒一人ひとりに寄り添い問題を早期に把握することで解決を早めるよう努め、教育面においても確認テスト、個別指導を実施し「面倒見の良さ」とともに「厳しさ」の両面での教育実践を進める。

2年生(前年比較)

○生徒アンケート

学校生活	II a. 学校生活は楽しく充実していますか。	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
		41%	47%	6%	6%	88%	92%
学校生活	VI d. 困ったことがあった時に相談できる先生がいますか。	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
		33%	47%	12%	8%	80%	78%

3年生(前年比較)

○生徒アンケート

学校生活	II a. 学校生活は楽しく充実していますか。	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
		40%	44%	12%	4%	84%	86%
学校生活	VI d. 困ったことがあった時に相談できる先生がいますか。	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
		48%	44%	8%	0%	92%	85%

A…当てはまる B…やや当てはまる C…どちらかといえば当てはまらない D…当てはまらない

(2)学習体制・学習環境について

感染拡大の第一波の際には学習アプリの課題配信やノートPCの設置、動画配信などを行い学びを止めることなく環境を整えたが保護者への周知や情報活用力の育成まではできていないことから、成果の可視化や教員の能力向上とともにICT教育の充実を図る。学習活動を促進するため設備以外にも卒業生の講演会を実施し夢への実現を具現化し、保護者と協力して学習促進を行うため、進路説明会野などの保護者参加を積極的に進め家庭との協力体制を構築する。

2年生(前年比較)

○生徒アンケート

学習環境	Vc本校の施設・設備は、学習活動を促進するために十分整備されていると思いますか。	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
		24%	59%	10%	6%	83%	90%

○保護者アンケート

学習環境	VIIb 本校の施設・設備は、生徒の学習活動を推進するために十分整備されている。	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
		29%	58%	13%	0%	87%	95%

3年生(前年比較)

○生徒アンケート

学習環境	Vc本校の施設・設備は、学習活動を促進するために十分整備されていると思いますか。	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
		31%	46%	12%	12%	77%	67%

○保護者アンケート

学習環境	VIIb 本校の施設・設備は、生徒の学習活動を推進するために十分整備されている。	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
		28%	54%	14%	4%	82%	97%

A…当てはまる B…やや当てはまる C…どちらかといえば当てはまらない D…当てはまらない

(3)進路指導

「目的を持った進路選択ができる・生き方を考える」を目標とし、進路情報の提供だけでなく様々な教育活動を通して勤労観や職業観、主体的・対話的学びの育成を行うことにより満足度の高い進路指導ができた。今後も継続して生徒一人ひとりに対する進路相談を計画的かつ丁寧に実施する。

2年生(前年比較)

○生徒アンケート

進路指導	質問内容	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
		20%	67%	10%	2%	87%	73%
進路指導	質問内容	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
	VIIb 適正・希望に応じた進路指導や相談が、担任からきめ細かく行われていると思いますか。	24%	55%	16%	4%	79%	72%

○保護者アンケート

進路指導	質問内容	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
		38%	50%	12%	0%	88%	65%
進路指導	質問内容	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
	Vb 適正・希望に応じた進路指導や相談が、担任からきめ細かく行われている。	36%	42%	20%	2%	78%	66%

3年生(前年比較)

○生徒アンケート

進路指導	質問内容	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
		62%	38%	0%	0%	100%	85%
進路指導	質問内容	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
	VIIb 適正・希望に応じた進路指導や相談が、担任からきめ細かく行われていると思いますか。	56%	40%	4%	0%	96%	89%

○保護者アンケート

進路指導	質問内容	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
		30%	52%	16%	2%	82%	85%
進路指導	質問内容	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
	Vb 適正・希望に応じた進路指導や相談が、担任からきめ細かく行われている。	29%	55%	14%	2%	84%	76%

A…当てはまる B…やや当てはまる C…どちらかといえば当てはまらない D…当てはまらない

(4)生活指導

生徒一人ひとりに熱心にに関わり生徒の気持ちをよく理解し、受け止め、ともに考え、課題を解決していこうと心がける。それを実践する上で規律やマナー・社会性を獲得することが大切だということをよく説明して全教職員で一致した指導を行うことを継続する。

2年生(前年比較)

○保護者アンケート

生徒指導	IVb 【保護者様は】 基本的な生活習慣や規則・マナーを身につけさせる本校の取り組みは、適切で満足している。	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
		43%	48%	9%	0%	91%	96%

3年生(前年比較)

○保護者アンケート

生徒指導	IVb 【保護者様は】 基本的な生活習慣や規則・マナーを身につけさせる本校の取り組みは、適切で満足している。	A	B	C	D	2022年度 A+B	昨年度 A+B
		51%	43%	2%	4%	94%	98%

4 学校関係者評価委員会からの評価結果について

2022(令和4)年12月7日に学校関係者評価委員会が開催され、下記の審議などがされた。

冒頭、資料に基づき、文部科学省のガイドラインに沿った「学校評価」について説明がされ、本校の学校評価委員会において決定された「学校評価」の進め方について説明がなされた。その「学校評価」に「学校関係者評価委員会」が関与する趣旨、関与方法について説明がされ、出席委員全員で共有された。

西川校長より、資料4に基づき、現在の本校の取組に関し、具体的に説明がされた。その後、事務局より、今年度の重点目標とその目標を設定した方法等が説明され、項目ごとの取組計画、取組状況、自己評価・達成状況及び今後の改善方法や保護者・生徒アンケートの集計結果が説明された。その上で評価や対応方法に関し、意見交換が行われた。

- ・面倒見が良く、個別指導など丁寧に対応していただいているので感謝している。
- ・教育環境が充実していることを説明を聞いて知ったことから、保護者の理解を得るため周知して欲しい。
- ・大学入試の制度変更など情報をまとめるのは大変ですが教員・保護者・生徒への情報提供を継続して欲しい。
- ・生涯教育の観点からも後期中等教育の果たす意義は重要であり、引き続き生徒への良質な教育を維持してもらいたい。

本校における対応について説明を行い、以上の意見に対して内容をまとめて「学校関係者評価」とすることが承認された。

学校関係者評価委員会委員名簿

- 横山 康代 育友会会長
- 松井 由香 育友会前会長
- 松田 卓也 蘭友会(同窓会)会長
- 小西 宗日出 桜井まちづくり株式会社代表取締役会長
- 前平 泰志 畿央大学教育学部学部長 現代教育学科 教授
- 植村 豊 学校法人冬木学園 法人事務局長
- 西川 隆彰 関西中央高等学校 校長

5 校長の意見書

本校は令和5年度をもって休校となる。令和4年度は在籍生徒2、3年生のみであった。

今年度は、三密を避け、ソーシャルディスタンスをとり、マスク着用及び手洗いや消毒の励行及び室内でのマスク着用などのコロナ対策を講じた生活が日常となった。年末からは海外からの旅行客受け入れが始まるなど経済活動は戻りつつあるが、年明けにかけて第8波が到来し、インフルエンザとの同時流行となった。そのような状況の中、学級閉鎖や休校することなく授業は行え、多くの行事は予定通り行えた。体育祭はスポーツ大会と合わせて9月30日に、文化祭は9月3日に、保護者対象の進路説明会は11月に、2年生対象の進路説明会は1月に実施した。卒業式は在校生を入れずに2月11日に無事に終えることができた。また、コロナ禍において、修学旅行が昨年度と同様に実施できたことはありがたい。

修学旅行は久米島、沖縄県方面行きが実現できた。「久米島での民泊体験はどうでしたか」の問いに100%の生徒が満足しており、「島の学校プログラム」では98%、「ハテの浜でのバナナボート体験」では92%の生徒が満足していると答え、「久米島や沖縄にまた行きたいと思いませんか」の問いに96%の生徒が行きたいと答えるなど全ての項目にわたって高評価であった。青春時代のよき思い出として心に刻まれたことと思う。一人ひとりのこれからの人生の糧になることを期待している。

学力をのばすために、正規の授業に加え、朝のHR前の「朝学」や放課後の取組として特進コースは「関中塾」を自教室で、進学コースは「知正の杜」や「知正塾」と称した学習支援プログラムを図書室で行っている。そのため一昨年度、図書室には個別の自習ブースを設け、エアコンも新調した。昨年度からは特進コースの「関中塾」の中に3年生を対象として外部指導者による「校内予備校」を設けた。2年生の進学コース生を対象にした「総合的な探究の時間」では、1年次から導入した次世代型教材を引き続き展開した。

また、スタディサプリを1年次から3年次まで取り組むことで、生徒の学力向上を目指している。個々の生徒のデータを分析し、そのデータを生かした取り組みを行い進路指導に生かしている。英語力アップが課題であるので、今年度もスタディサプリイングリッシュを視聴できるようにした。

生徒会が中心となって「思いやりの心・マナーアップ運動」を展開し、生徒たちが登下校時には校門一礼を行い、「元氣な挨拶日本一」を励行している。また、美化委員が中心となってプランターに花を植える「花いっぱい運動」を展開している。さらには、「建学の精神の唱和」を毎週月曜日の朝のHRで行っている。「輝く道を切り開こう、己の夢をつかみとれ」というかつての生徒会が作製した標語の垂れ幕を今も校舎に掲げ、生徒会役員は毎朝、国旗と校旗を掲揚している。若者らしくはつつとしたさわやかな姿が、関西中央高校生としての誇りと魅力になっている。なお、今年度は奈良県主催の高校生議会に生徒会役員が議員として参加した。リニアの実現やヤングケアラーへの施策について質問し、知事から答弁を受ける貴重な体験をすることができた。

初代理事長冬木智子先生が平成31年1月26日にお亡くなりになられた。

我々教職員一同は、次の世代を担う生徒たちに建学の精神をつなぎ、ひろめ、のばしていきたい。「一人ひとりに寄り添う」、「できないことを、みんなの力で、できることに」を合言葉に教職員一同日々の教育活動に邁進している。次年度は3年生が卒業する最後の年となる。令和5年度に勤務する教職員全てが一丸となり、「燃える集団」となって、生徒への教育に当たる所存である。